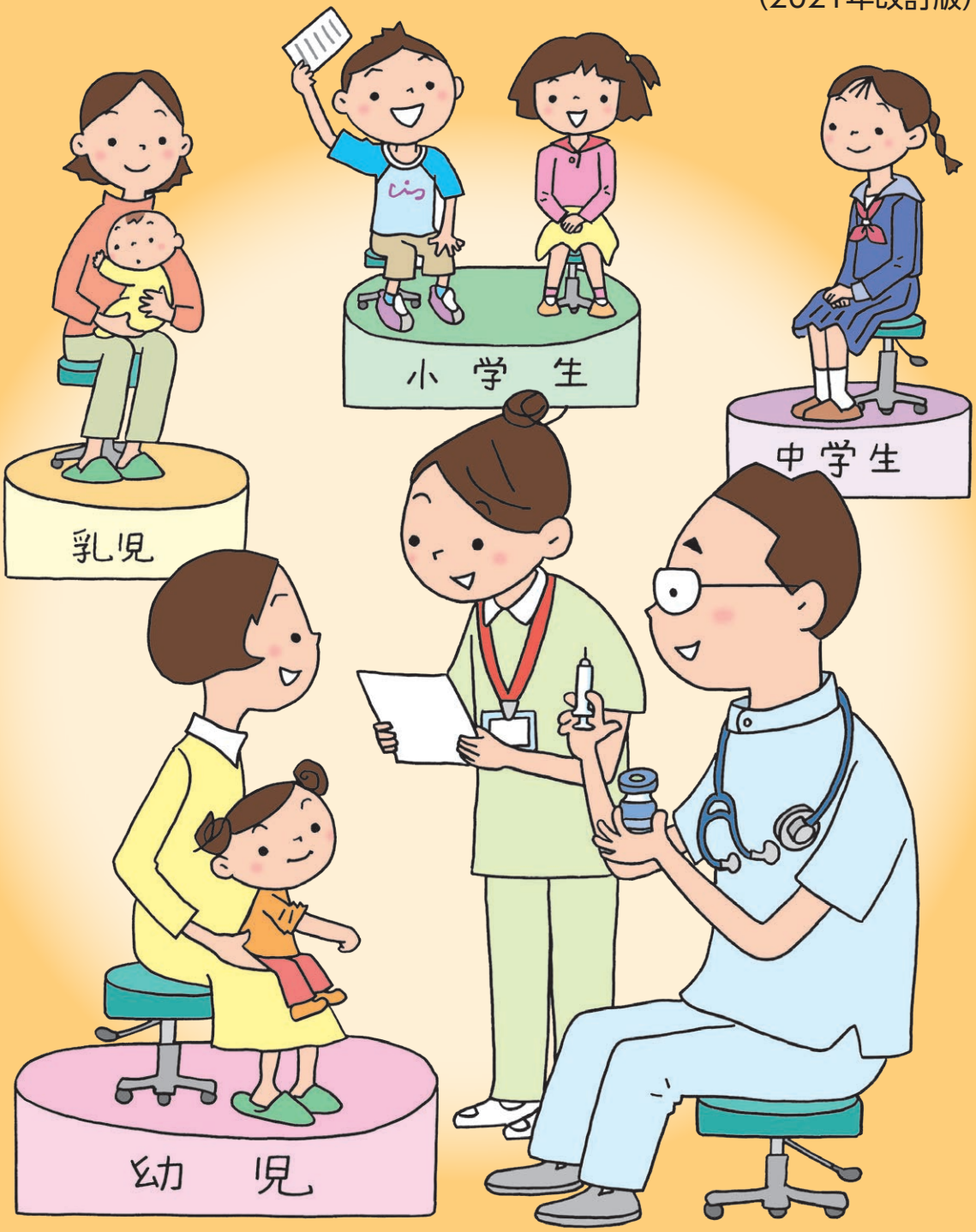
予防接種における

接種前の確認がとても大切です

間違いを防ぐために

（2021年改訂版）



はじめに

予防接種は感染症を予防するために最も特異的でかつ効果的な方法の一つです。わが国では 1990 年代以降、新しいワクチンの導入が少なく、海外では受けられるワクチンが国内では受けることができないといった、いわゆる「ワクチンギャップ」が問題になっていました。しかし、近年の予防接種法の改正により、2013 年 4 月（小児の肺炎球菌感染症、Hib 感染症、ヒトパピローマウイルス感染症）、2014 年 10 月（水痘、高齢者の肺炎球菌感染症）、2016 年 10 月（B 型肝炎）、2020 年 10 月（ロタウイルス感染症）に複数のワクチンが定期接種に導入され、接種可能なワクチンの種類という意味での「ワクチンギャップ」は解消されつつあります。

一方で小児における定期の予防接種は、とくに乳幼児期に接種が集中しており、また、ワクチンの種類によって接種間隔や接種回数、接種量、接種方法が異なっていることなどから、ときに予防接種に関する間違いが生じる可能性があります。

本パンフレットは、実際にあった間違い事例をもとに、それらの間違いを防ぐため、予防接種を行う際に確認すること、それぞれのワクチンの接種方法などについてまとめました。

予防接種を有効かつ安全に実施するために、医療機関をはじめ、予防接種に携わる皆様が本パンフレットをご活用いただければ幸甚です。

2021 年 1 月

国立感染症研究所感染症疫学センター

※なお、本冊子は国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）医薬品等規制調和・評価研究事業「ワクチン接種と重篤副反応の発生に関する疫学研究」で作成した内容を AMED 新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業「ワクチンで予防可能な疾病のサーベイランスとワクチン効果の評価に関する研究」で 2021 年 1 月時点の内容に改訂したものです。

実際にあった間違い事例

◉ ワクチンの種類 の間違い

1）姉妹で予防接種に来院したが、姉に接種する予定であったワクチンを間違えて妹に接種してしまった。さらに、妹に間違えて接種したワクチンは定期接種の年齢外（接種年齢の間違い）であった。

2）兄弟に接種する際、兄用に A ワクチンと B ワクチンを準備し、弟用に A ワクチンを準備していたが、間違えて兄に A ワクチンを 2 回接種してしまった。

3）来院した保護者から「子どもに 2 混のワクチンを接種してください」と言われ、本来 DT トキソイドの予定であったが、MR ワクチンを接種してしまった。

4）日本脳炎ワクチン（キャップの色が藤色）を接種予定であったが、間違えて 23 価肺炎球菌莢膜ポリサッカライドワクチン（キャップの色が濃い紫色）を接種してしまった。

5）23 価肺炎球菌莢膜ポリサッカライドワクチンの接種を希望する高齢者に間違えてインフルエンザワクチンの接種（同シーズン 2 回目）をしてしまった。

6）生後 2 か月の乳児に 13 価肺炎球菌結合型ワクチンを接種する予定であったが、間違えて 23 価肺炎球菌莢膜ポリサッカライドワクチンを接種してしまった。

◉ 接種年齢 の間違い

1）5 歳児（幼稚園の年中組）に第 2 期の MR ワクチンを接種してしまった（正しくは 5 歳以上 7 歳未満で小学校入学前の 1 年間にある者：年長組相当）。

2）生後 2 か月の乳児に 13 価肺炎球菌結合型ワクチンとの同時接種で四種混合ワクチンを接種してしまった（四種混合ワクチンの接種は生後 3 か月以上 7 歳 6 か月未満）。

3）日本脳炎の第 1 期追加を、8 歳 10 か月の小児（2009 年 7 月生まれ）に接種してしまった（日本脳炎の特例対象者のうち、2007 年 4 月 2 日～ 2009 年 10 月 1 日生まれの者における第 1 期の不足分については、生後 6 か月以上 7 歳 6 か月未満または 9 歳以上 13 歳未満が定期接種としての対象期間となります）。

4）生後 11 か月の乳児に 13 価肺炎球菌結合型ワクチンの追加（4 回目）を接種してしまった（正しくは 3 回目終了後 60 日以上あけて 1 歳以降に接種）。

◉ 接種回数 の間違い

1）Hib ワクチンの接種開始が 7 か月齢の子どもに初回接種を 3 回（正しくは 2 回）してしまった。

2）保護者が母子健康手帳・予診票を持たずに来院し、希望するワクチンを接種したが、実際は接種していないとの保護者の思いこみであり、接種済みのワクチンを再度接種してしまった。

3）接種後に母子健康手帳に記録を記入しようとした際、既に接種済みであったことに気づいた。

4）かかりつけの小児科で日本脳炎の第 1 期追加の接種を受けたが、母子健康手帳への記載が無かったため、別の小児科を受診した際に再度 1 期追加の接種を受けてしまった。

5）生後 11 か月の乳児に Hib ワクチンの初回 1 回目を接種し、その後、生後 12 か月で初回 2 回目の接種、2 歳で追加接種をしてしまった［初回接種の開始が生後 7 か月以上 1 歳未満の場合は合計 3 回（初回 2 回＋追加）の接種だが、初回 2 回目が 1 歳を超えた場合は行わず、初回は 1 回のみ（初回 1 回＋追加）となる］。

6）23 価肺炎球菌莢膜ポリサッカライドワクチンの接種歴がある高齢者に定期接種として 2 回目の接種をしてしまった（正しくは 1 回）。

◉ 接種間隔 の間違い

1）DPT-IPV ワクチンの 1 期初回接種時、1 回目の接種 1 週後に 2 回目を接種（正しくは 20 日以上あけて接種）してしまった。

2）生ワクチン接種 1 週後に他のワクチンを接種（正しくは 27 日以上あけて接種）してしまった。

◉ 接種量 の間違い

1）2 歳の子どもに日本脳炎ワクチンを 0.5mL 接種（正しくは 0.25mL）してしまった。

2）11 歳の子どもに DT トキソイドを 0.5mL 接種（正しくは 0.1mL）してしまった。

3）生後 3 か月の乳児に B 型肝炎ワクチンを 0.5mL 接種（正しくは 0.25mL）してしまった。

◉ 接種方法 の間違い

1）ヒトパピローマウイルスワクチンを皮下に接種（正しくは筋肉内接種）してしまった。

2）BCG ワクチンを 1 か所のみ（正しくは 2 か所）しか圧刺しなかった。

3）BCG ワクチンの接種時、管針についているキャップを外さずに圧刺してしまった（ワクチン液を塗り広げただけ）。

4）複数のワクチンを一つの注射に混ぜて接種してしまった（複数ワクチンを混合して接種してはならない）。

◉ ワクチンの取り扱い の間違い

1）生ワクチンを事前に溶解して診察室に並べて準備していた（生ワクチンの溶解は接種直前に行う）。

2）接種予約がキャンセルされたため、予定より保管期間が延びてしまい、次の接種時にワクチンの有効期限が切れていることに気づかずに接種してしまった。

◉ 接種器具の取り扱い の間違い

1）家族でインフルエンザワクチンの接種に来院し、人数分のワクチンをトレーに準備した。使用済みの接種器具を同じトレーに置いていたが、家族の別の者に接種した際に中身が空であることに気がついた。

2）集団接種において、予診票の人数分のワクチンと接種器具を用意していたが、全員の接種が終了した後に未使用の接種器具が 1 本残っていることに気づき、あらためて確認したところ使用済みの接種器具を使用してしまったことが判明した。

3）集団接種において、全員の接種が終了した後に使用済み接種器具の本数を数えたところ、接種人数分の本数に足りず、いずれかのタイミングで使用済みの接種器具を使用してしまったことが分かった。

4）医師が接種する際、誤って自分の指に針が刺さり出血したが、その針をアルコールで消毒してそのまま接種した。

5）保護者に抱かれた幼児に接種する際、幼児が動いたため保護者の指に針が刺さり出血したが、針先のみを交換して接種した。

◉ 保管方法 の間違い

1）冷蔵庫の故障による温度上昇に気がつかず、その冷蔵庫に保管していたワクチンを使用してしまった。

2）DPT-IPV ワクチンを間違えて冷凍庫に入れて凍らせてしまった（正しくは遮光して 10℃以下に凍結を避けて保存）。

3）ワクチンの納品後、しばらく室温で放置してしまった（納品後は直ちに定められた貯法及び取扱い上の注意：適切な温度、遮光の有無、凍結を避ける必要性等に従って保存する）。

予防接種における確認のポイント

1 接種するワクチンの種類を確認！

被接種者が希望するワクチンの種類を確認し、予定外のワクチンを接種しないようにしましょう。
とくに、前後で続けて他の種類のワクチンを希望する被接種者がいる場合は、注意が必要です。
接種前に母子健康手帳の予防接種のページを確認することが大切です。
また、以前の母子健康手帳では、予防接種の記載欄の場所が現行の母子健康手帳と異なる場合もありますので、注意しましょう。

■具体的な対応例

受付時や問診時に被接種者の名前（フルネーム）や接種するワクチンの種類を確認しましょう。
受付時には、母子健康手帳の予防接種のページにおいて、接種するワクチンの欄が空欄（まだ接種されていない）であることを確認しましょう。
確認後は、接種するワクチンの種類に応じて、色分けしたクリップなど、接種するワクチンが分かるようなものを予診票やカルテなどに付けておくと分かりやすいでしょう。
ワクチンを準備するときは、同時接種を行う場合などを除いて、異なる種類のワクチンを同じ容器（トレーなど）に入れないようにしましょう。
また、接種直前（問診時や診察中など）にワクチンの種類を本人あるいは保護者に伝えることで、確認になります。

2 接種年齢、接種間隔、接種回数を確認！

ワクチンの接種年齢、接種間隔、接種回数は、予防接種法施行令、同 施行規則、同 実施規則、定期接種実施要領、ワクチンの添付文書などに記載されています。
とくに複数回の接種が必要なワクチンの場合、ワクチンによって接種間隔が異なることがあるので注意が必要です。

■具体的な対応例

問診時に被接種者の名前（フルネーム）や接種するワクチンの種類を確認するとともに、被接種者がそのワクチンの決められた接種年齢の範囲、接種間隔、接種回数であることを確認しましょう。
ワクチンごとの接種年齢、接種間隔、接種回数を目に付くところに貼っておくと良いでしょう。
また、接種後は次回の接種日の予約を入れてもらうことや、接種時期の予定（○月○日以降、○月○日～△月△日など）を母子健康手帳やカルテなどにメモをしておくと良いでしょう。

3 接種量と接種方法を確認！

ワクチンの接種量や接種方法は予防接種実施規則やワクチンの添付文書などに記載されています。
同じワクチンでも年齢によって接種量が異なることがあるので注意が必要です。

■具体的な対応例

ワクチンの接種直前にワクチンの種類を確認するとともに、そのワクチンの決められた接種量や接種方法を確認しましょう。
多くのワクチンは 1 回あたり 0.5mL を皮下接種ですが、以下のワクチンは接種量や接種方法を間違いやすいので、ワクチンごとの接種量や接種方法を目に付くところに貼っておいたり、あらかじめカルテなどにメモをしておく（付箋を貼るなど）と良いでしょう。

【DT2 期】 1 回に**0.1mL** を皮下接種
【B 型肝炎】10 歳未満は1 回に**0.25mL** を皮下接種（10 歳以上は1 回に0.5mL を皮下または筋肉内接種）
【日本脳炎1 期】 3 歳未満は1 回に**0.25mL**（3 歳以上は1 回に0.5mL）を皮下接種
【インフルエンザ】 3 歳未満は1 回に**0.25mL**（3 歳以上は1 回に0.5mL）を皮下接種
【BCG】 管針を用いて**2 か所**に圧刺（経皮接種）
【HPV［2 価・4 価］】 1 回に0.5mL を**筋肉内接種**
【ロタウイルス】［1 価］ 1 回に**1.5mL** を経口接種 ／［5 価］1 回に**2.0mL** を経口接種

4 接種器具が未使用であることを確認！

使用済みの接種器具を誤って使用しないために、未使用と使用済みを区別できるようにしましょう。

■具体的な対応例

使用済み接種器具を廃棄するための容器を用意し、接種後は必ず廃棄容器に入れましょう。
また、未使用の接種器具を入れる容器と廃棄容器は違いが分かりやすい容器を用いたり、
それぞれの容器を近い場所に置かないようにしましょう。

5 ワクチンの有効期限や保管状態を確認！

有効期限切れのワクチンや保管状態が不適切なワクチンを接種しないために、ワクチンを準備するときだけでなく、普段から注意するようにしましょう。
また、ワクチンを準備するときは冷蔵庫などから取り出した後、長時間放置しないようにしましょう（とくに生ワクチンの場合）。生ワクチンに含まれるウイルスは日光に弱く、すぐに不活化されてしまうので、溶解の前後にかかわらず遮光し、溶解は接種直前に行い、一度溶解したワクチンは速やかに使用しましょう。

■具体的な対応例

ワクチンを冷蔵庫などの保管場所から取り出すときに有効期限が切れていないことを確認しましょう。
また、普段からワクチンの有効期限や保管状態（生ワクチンのほとんどは、遮光して 5℃以下あるいは 2 ～ 8℃であり、不活化ワクチンのほとんどは、遮光して 10℃以下あるいは 2 ～ 8℃です）に気をつけ、有効期限が近いワクチンを手前に置いたり、補助電源が付いた冷蔵庫に保管すると良いでしょう。なお、有効期限切れのワクチンや保管状態が適切でないワクチンは直ちに廃棄しましょう。

予防接種の具体的な流れ（例）

1 受付のとき

① 被接種者の名前（フルネーム）や接種するワクチンの種類を確認

② 母子健康手帳の予防接種のページにおいて、接種するワクチンの欄が空欄（まだ接種されていない）であることを確認

※接種するワクチンの種類に応じて、色分けしたクリップなど、接種するワクチンが分かるようなものを予診票やカルテなどに付けておくと良いでしょう

2 ワクチンを準備するとき

① ワクチンを冷蔵庫などの保管場所から取り出すときに、接種するワクチンの種類であること、有効期限が切れていないことを確認

※同時接種を行う場合などを除いて、異なる種類のワクチンを同じ容器（トレーなど）に入れないようにしましょう

② ワクチンを冷蔵庫などから取り出した後は長時間放置しないようにしましょう（とくに生ワクチンの場合）

※ワクチンは接種直前に溶解し、速やかに使用します。接種するまでは、遮光して冷所に保存することが重要です。

③ 使用済み接種器具を廃棄するための容器を用意する

※未使用の接種器具を入れる容器と違いが分かりやすい容器を用いて、それぞれの容器を近い場所に置かないようにしましょう

3 問診のとき ※受付時の確認事項について再度確認（ダブルチェック）

① 被接種者の名前（フルネーム）や接種するワクチンの種類を確認し、接種する予定のワクチンであることを本人または保護者に再度確認

※ 似た名前の被接種者が間違って診察室に入ってくる場合があるので、入室後に再度お名前をフルネームで確認しましょう。

② 被接種者がそのワクチンの決められた接種年齢の範囲、接種間隔、接種回数であることを確認

※ ワクチンごとの接種年齢、接種間隔、接種回数を目に付くところに貼っておくと良いでしょう

4 接種するとき

① 接種するワクチンの有効期限、接種量・接種方法を確認

※ ワクチンごとの接種量や接種方法を目に付くところに貼っておくと良いでしょう

② 接種器具が未使用であることを確認

5 接種の後

① 接種後の使用済み接種器具は必ず廃棄用の容器に入れる

② 母子健康手帳とカルテに接種状況を必ず記載する

※ 次回の接種日の予約を入れてもらうことや、接種時期の予定（○月○日以降、○月○日～△月△日など）も記載しておくと良いでしょう

予防接種で間違いがあった場合の対応（例）

※すべての対応が必要ということではありません。状況に応じた対応が求められます。

■ 直ちに被接種者の保護者あるいは被接種者本人に間違いがあったことについて謝罪するとともに、有効性や安全性に問題があるかどうか、また、その後の対応などについて説明しましょう。
■ 定期接種の場合は、委託元の自治体担当者に間違いに関する報告を行うとともに、（必要であれば）対応などについて相談しましょう。
■ 健康観察が必要となる場合、体調（体温、接種部位の腫脹、発疹、そのほか普段と違った様子など）について、不活化ワクチンでは1 週間程度、生ワクチンでは1 か月間程度確認しましょう（副反応疑い報告書に記載がある期間を考慮します）。
■ 血液などの検査が必要な場合、必要な項目について実施しましょう。
■ 再発防止策を早急に検討し、実施しましょう（すでにマニュアルなどがあれば再確認しましょう）。

【血液検査を実施する場合】

1 有効性の確認

接種4 ～8 週後に適切な方法による抗体価測定を行い、抗体陽性であるかどうかを確認。

例

麻疹：中和法で1:4未満、PA法で1:16未満、EIA法 (IgG)でカットオフ値未満の場合は**抗体陰性**

風疹：HI法で1:8未満、(IgG)でカットオフ値未満の場合は**抗体陰性**

2 安全性の確認

接種時の状況や感染が疑われる病原体の種類に応じて、接種当日、1 か月後、3 か月後、半年後など複数回の検査を行う。

例

一般検査（白血球数、血小板数など）
生化学検査（AST、ALT など）
感染症検査（B 型肝炎、C 型肝炎、HIV、HTLV、梅毒など）

各ワクチンの接種年齢・接種間隔・接種回数・接種量・接種方法

※以下は2019年3月現在のものであり、今後の予防接種法等の改正により変更になる場合があります。

小児における定期接種のワクチン

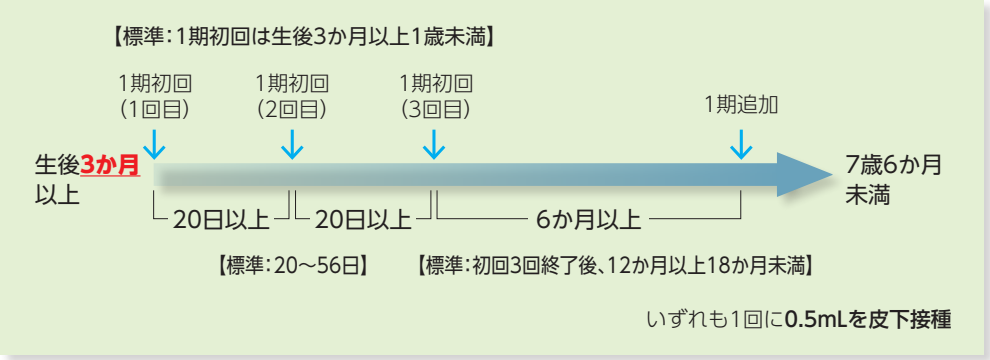
1 四種混合(DPT-IPV:百日せき・ジフテリア・破傷風・不活化ポリオ混合)、三種混合(DPT:百日せき・ジフテリア・破傷風混合)、ポリオ(IPV:不活化ポリオ)

【接 種 年 齢】生後3か月以上7歳6か月未満
※標準的な接種年齢:1期初回は生後3か月以上1歳未満

【接種間隔・回数】1期初回はそれぞれ20日以上あけて3回
※標準的な接種間隔:20~56日

1期追加は1期初回の3回目終了後6か月以上あけて1回
※標準的な接種間隔:1期初回の3回目終了後12か月以上18か月未満

【接種量・方法】いずれも1回に0.5mLを皮下接種



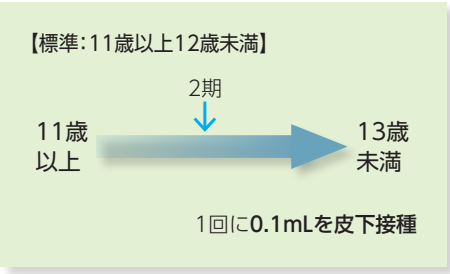
2 二種混合(DT:ジフテリア・破傷風混合)

【接 種 年 齢】11歳以上13歳未満
※標準的な接種年齢:11歳以上12歳未満

【接 種 回 数】2期として1回

【接種量・方法】1回に0.1mLを皮下接種

※1期で用いる場合、初回は20日以上あけて2回、追加1回となります(いずれも1回に0.5mLを皮下接種)



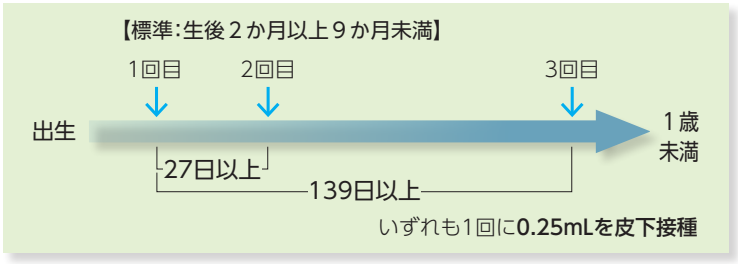
3 B型肝炎（水平感染予防）

【接 種 年 齢】1歳未満
※標準的な接種年齢：生後2か月以上9か月未満

【接種間隔・回数】27日以上あけて2回、1回目から139日以上あけて1回追加

【接種量・方法】いずれも1回に0.25mLを皮下接種
（長期療養を必要とした特例対象者で、10歳以上に接種する場合は1回に0.5mLを皮下または筋肉内接種）

※母子感染予防でB型肝炎ワクチンの接種を受ける場合は、定期接種としてではなく、健康保険で受けます。

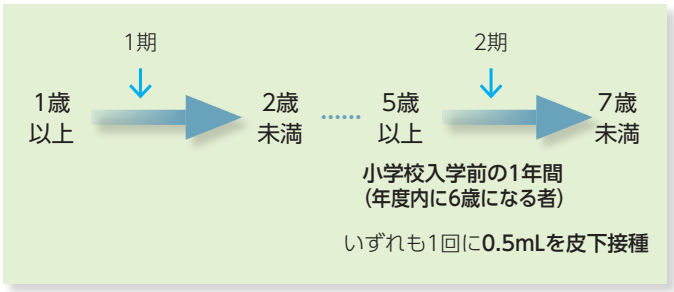


4 MR（麻しん・風しん混合）、麻しん、風しん

【接 種 年 齢】1期は1歳以上2歳未満
2期は5歳以上7歳未満で小学校入学前の1年間（年度内に6歳になる者）
※5歳であっても幼稚園の年中クラスや保育所の4歳児クラスの子どもは対象ではなく、また、6歳であっても小学1年生は対象ではありません

【接 種 回 数】1期は1回　2期は1回

【接種量・方法】いずれも1回に0.5mLを皮下接種

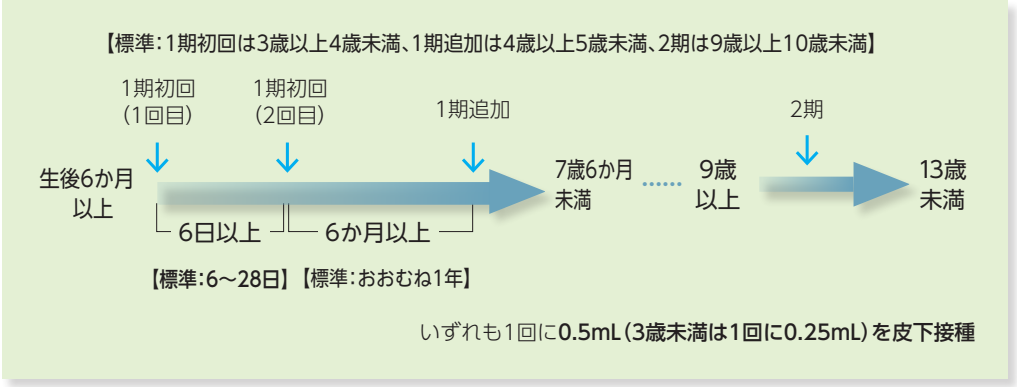


5 日本脳炎

【接 種 年 齢】1期は生後6か月以上7歳6か月未満
※標準的な接種年齢：1期初回は3歳以上4歳未満
1期追加は4歳以上5歳未満
2期は9歳以上13歳未満
※標準的な接種年齢：9歳以上10歳未満

【接種間隔・回数】1期初回は6日以上あけて2回
※標準的な接種間隔：6～28日
1期追加は1期初回の2回目終了後6か月以上あけて1回
※標準的な接種間隔：1期初回の2回目終了後おおむね1年
2期は1回

【接種量・方法】いずれも1回に0.5mL（3歳未満は1回に0.25mL）を皮下接種



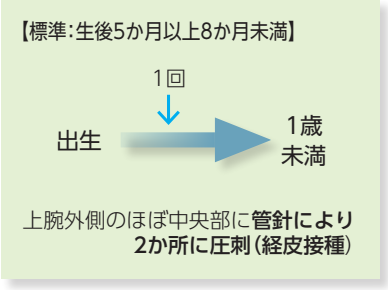
※1995年4月2日～2007年4月1日生まれの者は、接種回数（４回）の不足分を20歳未満まで定期接種として実施可能です。
また、2007年4月2日～2009年10月1日生まれの者は、第１期の接種回数の不足分を第１期（生後６か月以上７歳６か月未満）だけでなく、第２期（９歳以上13歳未満）の期間にも定期接種として実施可能です。

6 BCG

【接 種 年 齢】1歳未満
※標準的な接種年齢：生後5か月以上8か月未満

【接 種 回 数】1回

【接 種 方 法】上腕外側のほぼ中央部に管針を用いて2か所に圧刺（経皮接種）



7 小児肺炎球菌（PCV13：13価結合型）

【接 種 年 齢】生後2か月以上5歳未満　※標準的な接種年齢：初回接種の開始が生後2か月以上7か月未満

【接種間隔・回数】

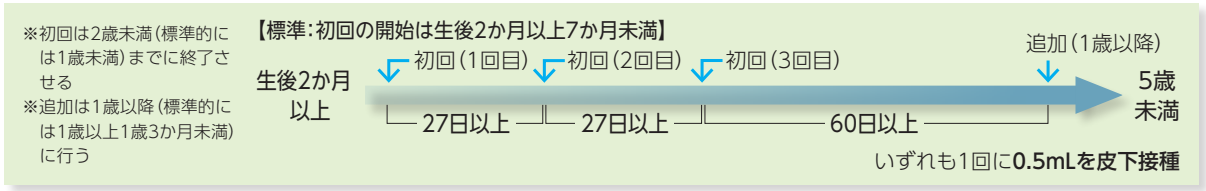
(1) 初回接種の開始が生後2か月以上7か月未満の場合（合計4回）

初回はそれぞれ27日以上あけて3回

※2回目および3回目は2歳未満（標準的には1歳未満）までに終了させる
※2回目および3回目が2歳を超えた場合は行わない（追加接種は可能）
※また、2回目が1歳を超えた場合、3回目は行わない（追加接種は可能）

追加は初回の3回目終了後60日以上あけて1歳以降に1回

※標準的には初回の3回目終了後60日以上あけて1歳以上1歳3か月未満に行う

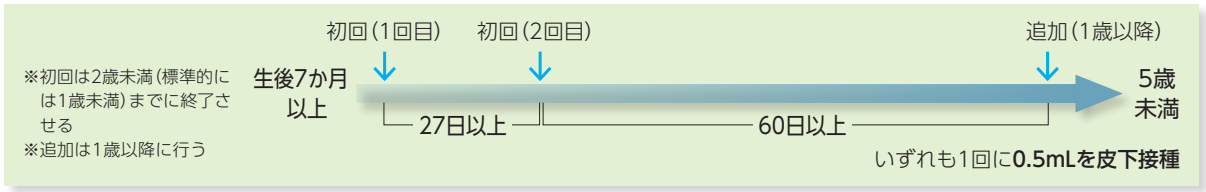


(2) 初回接種の開始が生後7か月以上1歳未満の場合（合計3回）

初回は27日以上あけて2回

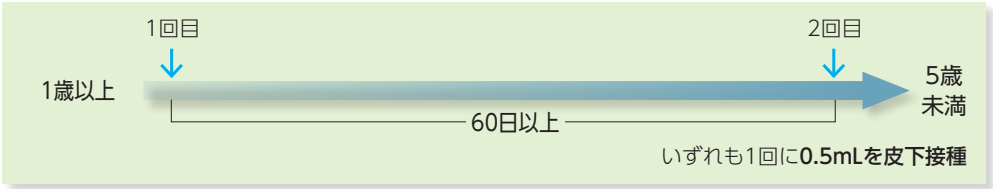
※2回目は2歳未満（標準的には1歳未満）までに終了させる
※2回目が2歳を超えた場合は行わない（追加接種は可能）

追加は初回の2回目終了後60日以上あけて1歳以降に1回



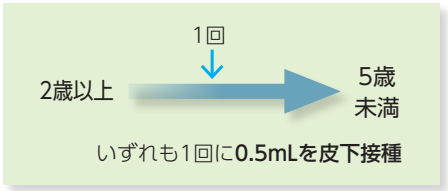
(3) 初回接種の開始が1歳以上2歳未満の場合（合計2回）

60日以上あけて2回



(4) 初回接種の開始が2歳以上5歳未満の場合（合計1回）

1回



【接種量・方法】いずれも1回に0.5mLを皮下接種

8 インフルエンザ菌b型(ヒブ、Hib)

【接 種 年 齢】生後2か月以上5歳未満　※標準的な接種年齢:初回接種の開始が生後2か月以上7か月未満

【接種間隔・回数】

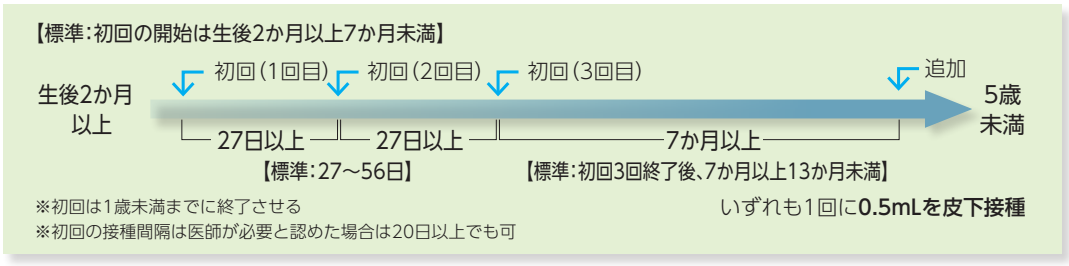
(1)初回接種の開始が生後2か月以上7か月未満の場合(合計4回)

初回はそれぞれ27日(医師が必要と認めるときは20日)以上あけて3回

※標準的な接種間隔:27～56日
※2回目および3回目は1歳未満までに終了させる
※2回目および3回目が1歳を超えた場合は行わない(追加接種は可能)

追加は初回の3回目終了後7か月以上あけて1回

※標準的な接種間隔:初回の3回目終了後7か月以上13か月未満
※初回の2回目あるいは3回目が1歳未満までに終了せず、1歳以降に追加接種を行う場合は、初回の1回目あるいは2回目の終了後27日(医師が必要と認めた場合は20日)以上あけて行う



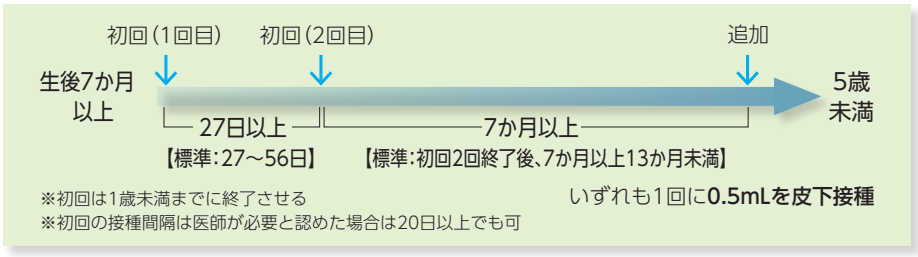
(2)初回接種の開始が生後7か月以上1歳未満の場合(合計3回)

初回は27日(医師が必要と認めるときは20日)以上あけて2回

※標準的な接種間隔:27～56日
※2回目は1歳未満までに終了させる
※2回目が1歳を超えた場合は行わない(追加接種は可能)

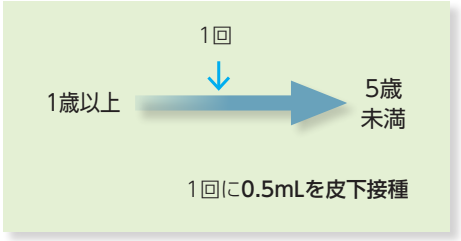
追加は初回の2回目終了後7か月以上あけて1回

※標準的な接種間隔:初回の2回目終了後7か月以上13か月未満
※初回の2回目が1歳未満までに終了せず、1歳以降に追加接種を行う場合は、初回の1回目の終了後27日(医師が必要と認めた場合は20日)以上あけて行う



(3)初回接種の開始が1歳以上5歳未満の場合(合計1回)

1回



【接種量・方法】いずれも1回に0.5mLを皮下接種

9 ヒトパピローマウイルス（HPV）

【接 種 年 齢】12歳になる年度初日から16歳になる年度末日までの女子（小学6年～高校1年相当）

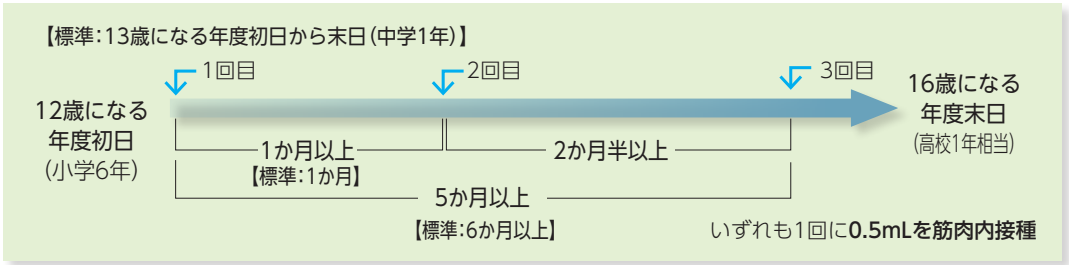
※標準的な接種年齢：13歳になる年度初日から末日（中学1年）

【接種間隔・回数】

（1）2価ワクチンの場合

1か月以上あけて2回、1回目から5か月以上かつ2回目から2か月半以上あけて1回

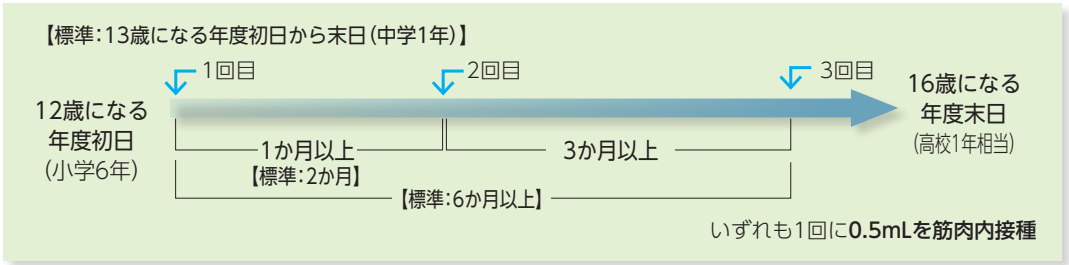
※標準的な接種間隔：1か月あけて2回、1回目から6か月以上あけて1回



（2）4価ワクチンの場合

1か月以上あけて2回、2回目から3か月以上あけて1回

※標準的な接種間隔：2か月あけて2回、1回目から6か月以上あけて1回



【接種量・方法】いずれも1回に0.5mLを筋肉内接種

10 水痘

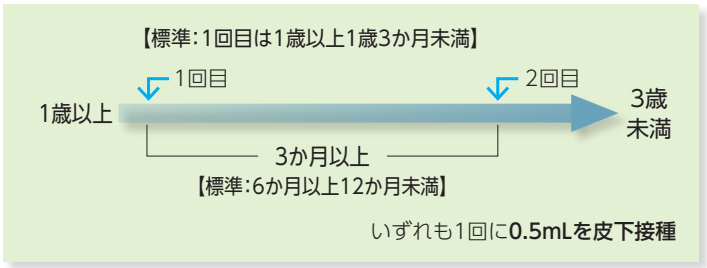
【接 種 年 齢】1歳以上3歳未満

※標準的な接種年齢：1回目は1歳以上1歳3か月未満

【接種間隔・回数】3か月以上あけて2回

※標準的な接種間隔：1回目の接種後6か月以上12か月未満

【接種量・方法】いずれも1回に0.5mLを皮下接種



11 ロタウイルス

(1)1価ワクチンの場合

【接 種 年 齢】生後6～24週（1回目は生後14週6日までが望ましい）
【接種間隔・回数】4週以上あけて2回
【接種量・方法】いずれも1回に1.5mLを経口接種

(2)5価ワクチンの場合

【接 種 年 齢】生後6～32週（1回目は生後14週6日までが望ましい）
【接種間隔・回数】それぞれ4週以上あけて3回
【接種量・方法】いずれも1回に2.0mLを経口接種

成人における定期接種のワクチン

1 インフルエンザ

【接 種 年 齢】65歳以上の者および60歳以上65歳未満で特定の疾患を有する者※

※心臓、腎臓又は呼吸器の機能に自己の身辺の日常生活活動が極度に制限される程度の障害を有する者及びヒト免疫不全ウイルスにより免疫の機能に日常生活がほとんど不可能な程度の障害を有する者

【接 種 回 数】1回／年
【接種量・方法】1回に0.5mLを皮下接種

2 高齢者肺炎球菌（PPSV23：23価莢膜ポリサッカライド）

【接 種 年 齢】65歳の者および60歳以上65歳未満で特定の疾患を有する者※

※特定の疾患を有する者は上記❶のインフルエンザに準じる
※2023年度までは各年度内に65歳、70歳、75歳、80歳、85歳、90歳、95歳、100歳になる者でこれまでに接種を受けたことが無い者、および2019年度に限り2018年度末に100歳以上の者でこれまでに接種を受けたことが無い者は定期接種（経過措置）として1回の接種が受けられます。

【接 種 回 数】1回
【接種量・方法】1回に0.5mLを皮下または筋肉内接種

3 風しん

【接 種 年 齢】昭和37（1962）年4月2日から昭和54（1979）年4月1日までの間に生まれた男性

※2021年度までの対応：風しんに対する抗体検査の結果、十分な量の風しんの抗体がない（赤血球凝集抑制法で抗体価1:8以下相当）者に限り、定期接種として1回の接種が受けられます。

【接 種 回 数】1回

※使用するワクチンは、原則、MR（麻しん・風しん混合）ワクチン。市町村によっては風しんの単味ワクチンを使用できない場合がありますので、必要に応じて定期接種の実施主体である市町村にご確認ください。なお、集合契約で接種可能なワクチンは、MR（麻しん・風しん混合）ワクチンとなります。

【接種量・方法】1回に0.5mLを皮下接種

任意接種のワクチン

1 インフルエンザ ※65歳以上の者および60歳以上65歳未満で特定の疾患を有する者は定期接種(B類)の対象となります

【接 種 年 齢】生後6か月以上 ※対象年齢が1歳以上のワクチンがあります
【接種間隔・回数】13歳未満は2～4週(4週が望ましい)あけて2回
13歳以上は1回 または 1～4週(4週が望ましい)あけて2回
【接種量・方法】いずれも1回に0.5mL(**3歳未満は1回に0.25mL**)を皮下接種

2 B型肝炎

(1)水平感染予防 ※1歳未満の者は定期接種(A類)の対象となります
【接 種 年 齢】1歳以上
【接種間隔・回数】4週あけて2回、1回目から20～24週あけて1回(計3回)
【接種量・方法】いずれも1回に0.5mLを皮下または筋肉内接種(**10歳未満は1回に0.25mLを皮下接種**)

(2)母子感染予防:HBs抗原陽性の母親から生まれた乳児の場合(健康保険適用あり)
【接種間隔・回数】1回目は出生直後(生後12時間以内が望ましい)、HBグロブリンとの併用
2回目は1回目の1か月後、3回目は1回目の6か月後
※必要に応じて(能動的HBs抗体が獲得されていない場合など)追加接種を行う
【接種量・方法】いずれも1回に0.25mLを皮下接種

3 おたふくかぜ

【接 種 年 齢】1歳以上
【接 種 回 数】1回(1歳と小学校入学前1年間の2回が望ましい)
【接種量・方法】1回に0.5mLを皮下接種

《参考》

国内で使用可能なワクチン・トキソイド一覧（2021年1月現在）

一般的な名称	製造販売元	販売名
生ワクチン		
MR(麻しん・風しん混合)	第一三共 (株)	はしか風しん混合生ワクチン「第一三共」
	武田薬品工業 (株)	乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン「タケダ」
	(一財) 阪大微生物病研究会	ミールビック
麻しん	第一三共 (株)	はしか生ワクチン「第一三共」
	武田薬品工業 (株)	乾燥弱毒生麻しんワクチン「タケダ」
風しん	第一三共 (株)	乾燥弱毒生風しんワクチン「第一三共」
	武田薬品工業 (株)	乾燥弱毒生風しんワクチン「タケダ」
	(一財) 阪大微生物病研究会	乾燥弱毒生風しんワクチン「ビケン」
BCG	日本ビーシージー製造 (株)	乾燥BCGワクチン (経皮用・1人用)
水痘・帯状疱疹	(一財) 阪大微生物病研究会	乾燥弱毒生水痘ワクチン「ビケン」
おたふくかぜ	第一三共 (株)	おたふくかぜ生ワクチン「第一三共」
	武田薬品工業 (株)	乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン「タケダ」
ロタウイルス [1価]	グラクソ・スミスクライン (株)	ロタリックス内用液
ロタウイルス [5価]	MSD (株)	ロタテック内用液
黄熱	サノフィ (株)	黄熱ワクチン
不活化ワクチン・トキソイド		
四種混合 (DPT-IPV：百日せき・ジフテリア・破傷風・不活化ポリオ混合)	KMバイオロジクス(株)	クアトロバック皮下注シリンジ
	(一財) 阪大微生物病研究会	テトラビック皮下注シリンジ
	第一三共 (株)	スクエアキッズ皮下注シリンジ
三種混合 (DPT：百日せき・ジフテリア・破傷風混合)	(一財)阪大微生物病研究会	トリビック
二種混合 (DT:ジフテリア・破傷風混合)	第一三共 (株)	沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド「第一三共」
	武田薬品工業 (株)	沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド「タケダ」
	KMバイオロジクス(株)	沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド「KMB」
	(一財) 阪大微生物病研究会	DTビック
ポリオ(IPV:不活化ポリオ)	サノフィ (株)	イモバックスポリオ皮下注
インフルエンザ菌b型(ヒブ、Hib)	サノフィ (株)	アクトヒブ
肺炎球菌(PCV13:13価結合型)	ファイザー (株)	プレベナー13水性懸濁注
B型肝炎	KMバイオロジクス(株)	ビームゲン注 0.25mL
		ビームゲン注 0.5mL
	MSD (株)	ヘプタバックス-Ⅱ水性懸濁注シリンジ0.25mL
		ヘプタバックス-Ⅱ水性懸濁注シリンジ0.5mL

一般的な名称	製造販売元	販売名
日本脳炎	KMバイオロジクス(株)	エンセバック皮下注用
	(一財) 阪大微生物病研究会	ジェービックV
ヒトパピローマウイルス [2価]	グラクソ・スミスクライン (株)	サーバリックス
ヒトパピローマウイルス [4価]	MSD (株)	ガーダシル水性懸濁筋注シリンジ
インフルエンザ	第一三共 (株)	インフルエンザHAワクチン「第一三共」1mL
		インフルエンザHAワクチン「第一三共」シリンジ0.5mL
		インフルエンザHAワクチン「第一三共」シリンジ0.25mL ※3歳未満用
	KMバイオロジクス(株)	インフルエンザHAワクチン「KMB」
	(一財) 阪大微生物病研究会	「ビケンHA」
		フルービックHA
		フルービックHAシリンジ
	デンカ (株)	インフルエンザHAワクチン「生研」
肺炎球菌 (PPSV23:23価莢膜ポリサッカライド)	MSD (株)	ニューモバックスNP
成人用ジフテリア	(一財) 阪大微生物病研究会	ジフトキ「ビケンF」
破傷風	第一三共 (株)	沈降破傷風トキソイド「第一三共」シリンジ
	武田薬品工業 (株)	沈降破傷風トキソイドキット「タケダ」
	KMバイオロジクス(株)	沈降破傷風トキソイド「KMB」
	(一財) 阪大微生物病研究会	破トキ「ビケンF」
	デンカ (株)	沈降破傷風トキソイド「生研」
A型肝炎	KMバイオロジクス(株)	エイムゲン
狂犬病	グラクソ・スミスクライン(株)	ラビピュール筋注用
髄膜炎菌 [4価]	サノフィ (株)	メナクトラ筋注
帯状疱疹	グラクソ・スミスクライン(株)	シングリックス筋注用

● 詳しい情報は ●

https://www.niid.go.jp/niid/ja/vaccine-j.html